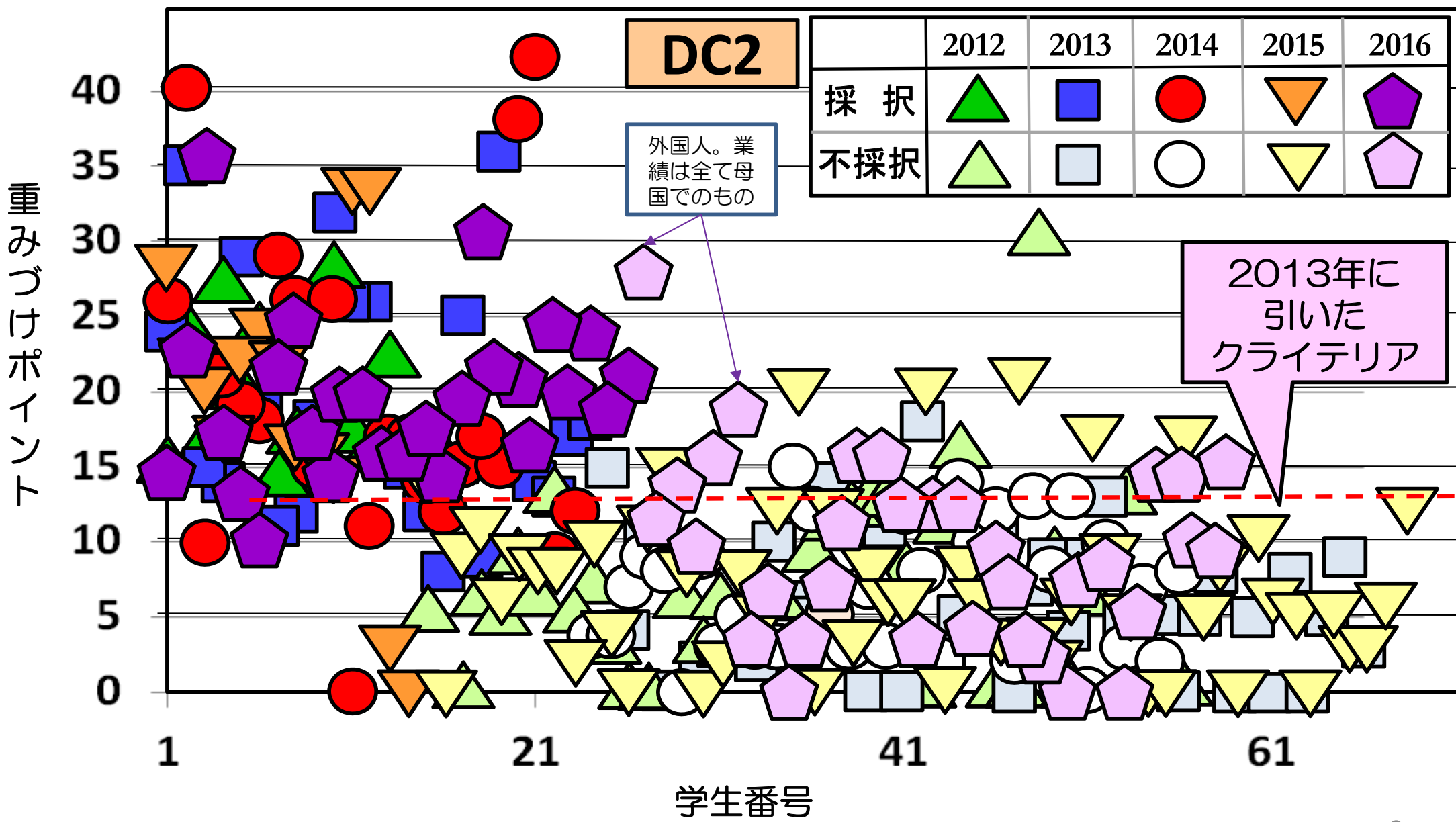


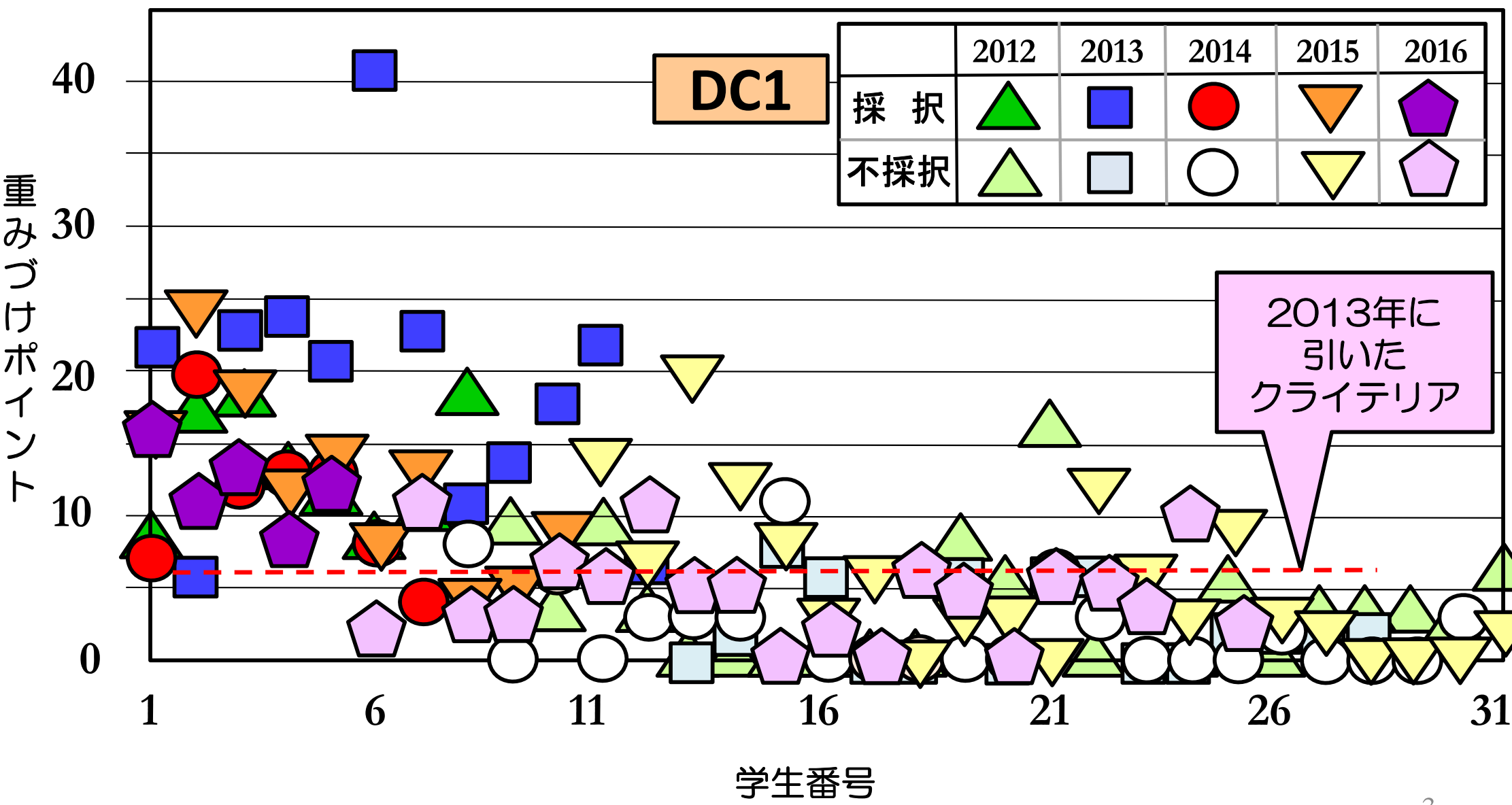
全体：申請者によく言い聞かせてください

- 優れた研究テーマであることは大前提。
- しかし、単に当該研究テーマに対する助成ではなく、そのテーマを確実に実施できる能力があるかを問われる。
- 将来を担う優れた人財への国の投資である。従って、プロの研究者の卵としての資質を問われる。
- 故に、非常に高いステータスを持つ→履歴書に堂々と書けるタイトルであり、他の学生との差別化が図れる。
- 従って、就職にも有利に働く

筆頭著者 原著論文	筆頭著者査読 無し論文	筆頭著者 proceedings	国際会議 □頭発表	国際会議 P S説明者	特筆すべき 受賞
5	3	3	3	2	3



筆頭著者 原著論文	筆頭著者査読 無し論文	筆頭著者 proceedings	国際会議 □頭発表	国際会議 P S説明者	特筆すべき 受賞
5	3	3	3	2	3



より採択される確率を上げるためのポイント

① 過去4年分の申請書からコア要素の重みづけ評価の結果、採択されるための業績の目安は、大略以下のようである。

PD 36ポイント
DC2 13ポイント
DC1 6ポイント

目安

筆頭著者原著論文1本
英語口頭発表1回

和文、英文、雑誌のランキングとはほぼ無関係のよう

自分で発表しないとダメ

筆頭著者 原著論文	筆頭著者査読 無し論文	筆頭著者 proceedings	国際会議 口頭発表	国際会議 PS説明者	特筆すべき 受賞
5	3	3	3	2	3

ただし、採択率が低下した2014年（平成27年度採用枠）の結果においては、上記のクライテリアを超えていても不採択になった例が幾つか見られる。ハードルが上がったのか、その原因についての分析を急ぎたい。

2016年度までの採用枠申請者の分析結果のまとめ

- 採択される業績ポイントの閾値に大きな違いは見られない。
PD：35ポイント、DC2：13ポイント、DC1：6ポイント
- 業績内容（本人か、所属研究室によるものか）、発表の場のステータス（国際会議か、ローカルな集会か）等、**審査員は相変わらずよく精査している**とみられる。
- 申請書の書き方に工夫の余地を残した惜しまれる不採択例が見される。第三者のコメントを取り入れることにより、かなり改善されることが期待できる。
- 定量的比較が難しい研究計画、将来への抱負などの記述面（**魂の部分**）は、鋭意工夫が望まれる。

このトレンドに大きな変化はないと思われる

タイトル

- ○○法による○○の測定

ネガティブ！
測定や解析は目的達成のための手段であり、タイトルにはゴールを謳うべき

- □□モデルによる△△のシミュレーション

- ○○に及ぼす○○の影響

ネガティブ！
ひとつの要素だけを調べるような非常に狭い印象を受ける

- △△現象を利用した○○の新機能創成

- ◇◇◇◇への挑戦

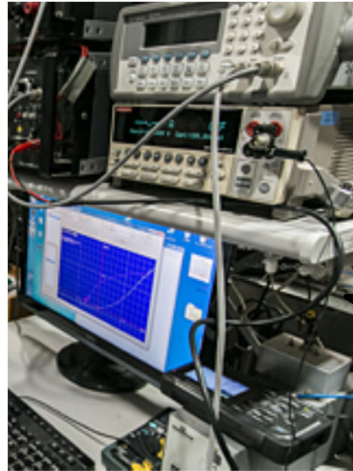
グッド！
新進気鋭の学生が、挑戦性の高い課題に取り組もうとする強い意志が見えると良い。ただし、「挑戦」や「創成」等はよく使われる言葉なので要工夫

- □□新理論

大胆だがインパクトはある

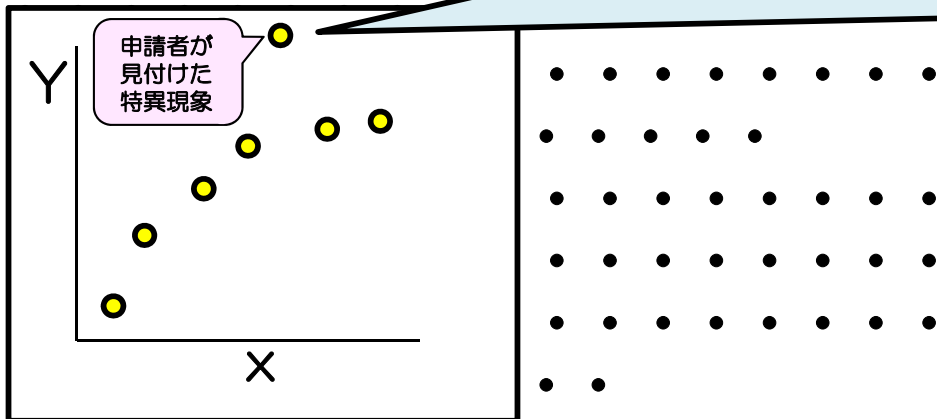
魂の部分のコンテンツ

図表は効果的に使いたいが、よくある勘違い (So, what?)



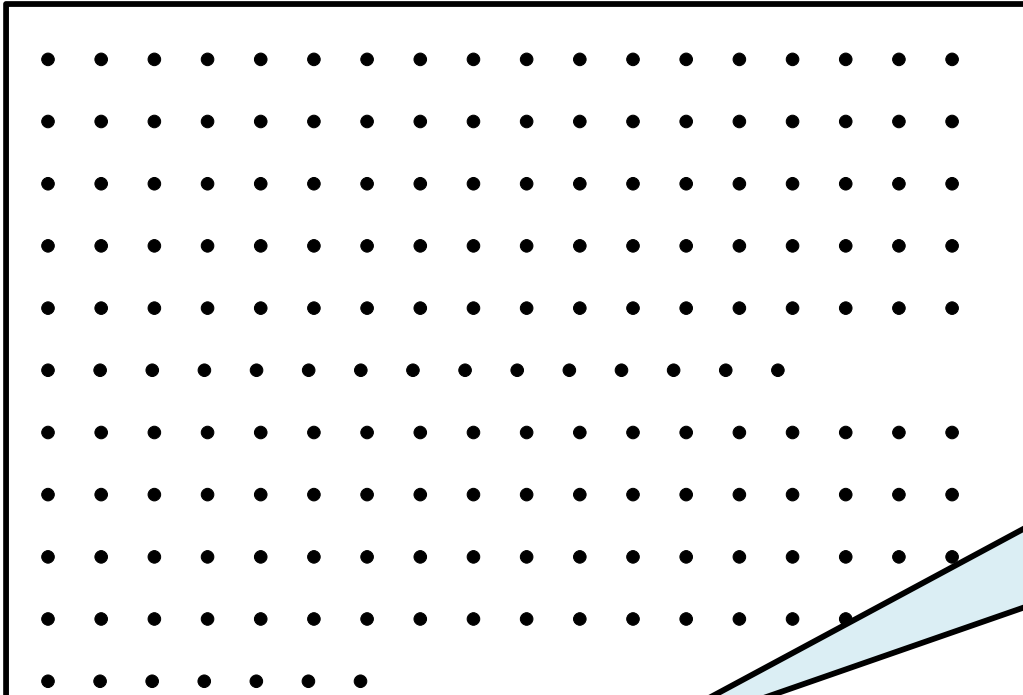
きれいな装置の写真等を貼っているケースがよく見られるが、カタログではないので、アピールに結びつかなければスペースの無駄

グラフや表を使うのは有効。しかしながら、このグラフのどこにアピール点があるのかが明確ではない場合が多い。どこを見てほしいのか、何をアピールしたいのか、図中に吹き出し等でコメントを入れておくことがコツ。例えば、チャンピオンデータであるとか、従来の常識と全く異なる傾向である等。研究室での従来の成果の延長ではなく、申請者自身による新しいコンセプトであると説明できれば高い評価を得やすい。

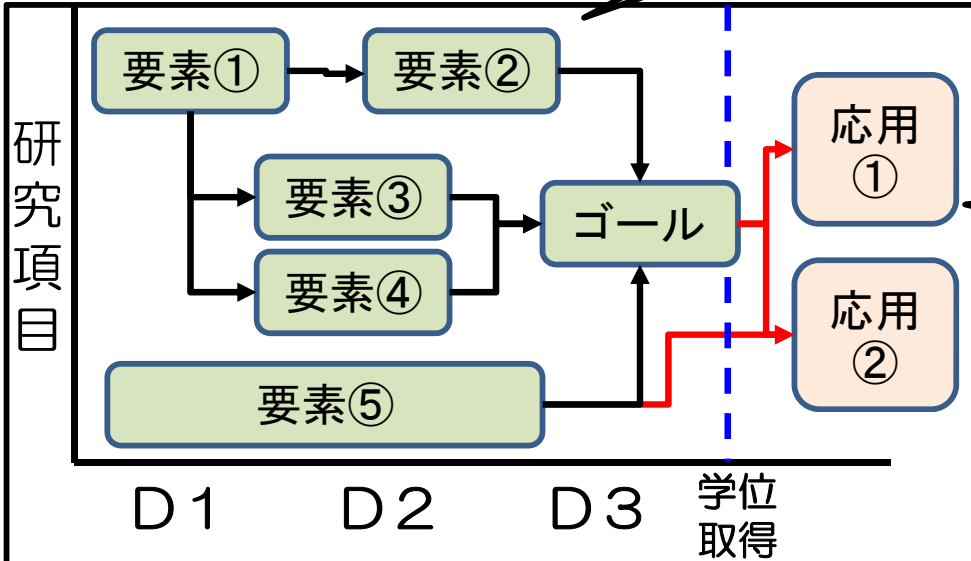


魂の部分のコンテンツ

研究遂行スケジュールを 図表化するとよい



研究の要素項目実施の年次計画を、各要素の関係と共に示しておくで、非常にわかりやすい。よく計画が練られている印象を持ってもらえる。計画通りに進まなかった場合のオプション要素なども書かれていると、安心感を持ってもらえる。



この手の図表が示されている例は多いが、学位取得後のビジョンまで示されているケースは稀。人材への投資である性格上、学位取得後の計画まで示すべき

4. 研究遂行力の自己分析 芳しい業績がなくても十分な遂行能力があることを、ポテンシャルを含めて効果的に見せる

4. 研究遂行能力

〇〇の研究について、文献オーバービューの段階にあり、具体的研究実績は残せていない。

- (1) 学術雑誌等に発表した論文、著書
なし
- (2) 学術雑誌等又は解説、総説
なし
- (3) 国際会議における発表
なし
- (4) 国内会議等における発表
なし
- (5) 受賞
なし

正直な申告かもしれないが、
木で鼻を括ったようで印象が悪い

例えば学会の支部講演会であっても、発表歴があれば、いずれ論文や国際会議発表に至るはずなので、具体的に「見込み」を書いておく。見込み通りに発表できた場合は、面接審査時に「計画通り」とアピールできる。

4. 研究遂行力の自己分析

〇〇の研究について、△△現象についての文献オーバービューを行い、本研究の立ち位置を明確にしている。また、コア技術である□□法の第一人者である〇〇博士のご指導を仰ぎ、研究方法はほぼ確立されつつある。実験データが得られ次第、計画通り研究を進め、成果発表を行う。

- (1) 学術雑誌等に発表した論文、著書
現状では原著論文の実績はないが、以下の論文を投稿する計画である
(参考)
S. Satomi, H. Kanai: New Ultrasonic Technique for Medical Treatment, Nature, 投稿準備中
- (2) 学術雑誌等又は解説、総説
なし
- (3) 国際会議における発表
□□法のメソッドロジーについては、下記の(4)の発内容を精査、高度化させて、以下の国際会議に発表エントリーする予定である。
(参考)
S. Satomi, H. Kanai: Plasma-Agri: New Concept of Engineering, International Conference of Engineering Research, Singapore, 2017 登録予定
- (4) 国内会議等における発表
□□法について自身の工夫を加えた新しい方法を考案した。
・里見進、金井浩：超音波を用いた医療と農業の融合技術、日本萌芽技術学会東北支部講演会、2015
- (5) 受賞
里見進：日本萌芽技術学会東北支部講演会ポスターセッション、佳作

5. 研究遂行力の自己分析、自身の強み、目指す研究者像の説明上のポイント

謙虚な学生らしく、「です、ます調」で書く方が好ましい

キーワード：真摯、謙虚、挑戦、協調

・・・多くの新しい知識と思考の柔軟性を得るよう常に心掛けたいと思います。

・・・感染症拡大の困難の中で、素晴らしい仲間と共に、多くを学ぶことが出来ました。

・・・信念と執念を持って、決して挫けることなく努力し続けたいと思います。

自己評価のエビデンス提示

- ・・・管理者試験合格
- ・・・〇〇四段

過去の業績、今後の研究計画・準備に対して、所属グループの力ではなく、申請者個人がどれだけ第一人称で研究を構想・計画し、審査に臨んでいるかを主張することが重要。すなわち、研究遂行力が備わっていることを第三者に説得する気迫が重要。